

山岳科学総合研究所 友の会会報

2014年6月 第13号



蝶が岳から槍・穂高を望む（15回現地研修会をお楽しみに）

もくじ

第12回乗鞍現地研修会 報告 木村成雄	2
第13回上高地現地研修会 報告 大和 博	3
第14回新潟現地研修会 報告 荻野秀夫	4
第13・14回現地研修会を振り返って 小林久雄	5
上高地クエスチョン	6
編集後記	6

第 12 回乗鞍現地研修会 報告

冬季乗鞍高原研修会

友の会では三回目となる冬季乗鞍高原研修会に初めて参加しました。

乗鞍岳は松本市の西側、北アルプス最南端で表尾根が梓川で切られる谷の奥地に市内から見通せる山で、松本市民には常念岳とならんで親近感のある山です。特に真冬のこの時期は、その左右の松本盆地西縁の山並みに比べ一段と冠雪した白さが目立つ山です。

研修会の当日は天気予報でも警戒されたとおり大変な大雪の日になりました。当初は自分の車でのおんびりと思っていたのですが、四輪駆動でない自分の車で行くのは心配になり事務局に相談し、途中まで自分の車でいき、それから会員の車に同乗させてもらい行くことにしました。正午頃に家を出発し、市内に出るやいきなり車の渋滞にぶつかりました。鉄道をまたぐ橋や坂道で登れない車が出て思うように進まない。何とか待ち合わせの場所に着き、そこから会員の渡邊さんの車に乗せてもらい乗鞍に向かいました。しかしこの日は、この先梓川溪谷の山あいに入った道路でも除雪が追いつかず、トラブル車が数箇所あり、普段の倍以上の時間がかかって、何とか宿泊場所の「山岳科学総合研究所乗鞍ステーション」に着くことが出来ました。この大雪で来られない人が6名で参加者は14名でしたが、こんな日は動かないのも一つの判断だから仕方ない。今日の研修会の講師を予定していた休暇村乗鞍高原総支配人さんも、自分の持ち場の対応が忙しく来られないとのことで講演も中止。夕食の懇親会までの間に隣接の松本市営銀山荘の温泉に入る。熱めのいい湯でした。

夜の懇親会は、事務局の奥原さん等が早めに宿に入り準備してくれた鍋料理や、この会のいつものように沢山用意された酒、差し入れの酒とつまみをいただきながら懇談を楽しんだ。懇親会の時に話した大江さんは何と岡山からの参加との事。松本からこの雪の中をやっとたどりついた思いの私はびっくりした。遠路はるばる参加する会員がいることが、この会の特徴（良さ）かもしれない。

翌日は雪が一日降り続いた前日とは違い青空の好天。朝、宿の前から見た乗鞍岳が美しかった。私はスキーもやるのですが、今回はスノーシューでの自然観察会に参加した。奥原さんに案内と講師をやっていただいた。私は乗鞍岳にスキーや登山、そして高原にも何回か来たことはあるが、こうやって乗鞍高原の地形、高原開発の歴史、自然の説明を聞きながら歩くのは初めてで為になった。前日の講演が予定通り開かれ聞けていたら、もっと興味深く理解も深まったのにと残念だった。高原には牧場は古くからあったようだが、以前の大野川集落は現在地より一段下がった梓川寄りにあったこと、冬季オリンピックで日本初のメダリスト猪谷千春さんが戦前この地に入りスキーの特訓を受けたこと、昔銀鉦山があったこと、そして戦後スキー場や自然保養地として開発され現在の姿に至ったこと、冬の樹木や鳥のこと等沢山の話聞いた。あらためて冬以外の気候の良い時期にゆっくり乗鞍高原を訪ねてみたいと思った。私はスキーで野麦峠スキー場に行くのだが、このスキー場の頂部からからは高原と乗鞍岳の全容が見渡せ、晴れた日にここから見る乗鞍岳が好きです。自然観察は一ノ瀬牧場までの往復で宿に戻り、お昼は昨晚の残り物とおいしいカレーをいただいた。そして皆で片付けをし、正午過ぎに宿を出発する。帰りも渡邊さんの車に同乗させてもらい、除雪された道路を順調に走り帰る。この研修会のために準備をされた事務局の皆さん、関係者の皆さん、そして渡邊さん有難うございました。

木村成雄

第 13 回上高地現地研修会

—古道徳本峠道をたどる—

竹原・細萱さん手づくりのうまい朝食で、前夜の大宴会の名残を取り払い、7時上高地ステーションを出発。明神橋から望む明神岳南峰と野鳥のさえずりに見送られ、やや重い足取りで明神へ。明神一帯並びに、徳本への入り口から少し入った一帯にはニリンソウの群落が広がり春の息吹を感じる。群落をよ〜く観察して緑のニリンソウの花を見つける。きょう一日の安全で楽しいトレッキングと・・・を祈りはしたが！出発して30分白沢と黒沢の出会いか？雪崩で倒れた大木が重なり合った光景を見ながら休憩、一息つくが自然の猛威をつぶさに見られた。少し歩くと登山道はずれ黒沢の雪の上に。雪上歩行は覚悟していたがこんなに早く始まり、これから約1時間あまり雪渓の直登が続くとは思ってもせずステップを切りながら歩く。出だしは快調ではあったが、先頭を歩く山慣れた奥原事務局長・山口会長のペースについていけず、息が上がり始め、ペースがつかめず20歩進んでは立ち止まりまた進むを繰り返す、時折片足をスリッパさせ、変に力が入り緊張の山行であった。でも立ち止まり振り返ると穂高・明神の岩峰が霞



んで見え、高度感が素晴らしく感じられた。悪戦苦闘の登りを終え午前9時前には徳本峠小屋に到着。峠小屋の高山さんはじめ小屋の従業員の皆さんの歓迎を受ける。温かいお茶とお菓子、取れたてのコゴミの天ぷらが疲れを癒してくれた。

9時30分峠小屋を出発少し残雪の上を歩き峠沢を下る。下ること20数分冷たい“ちから水”でのどを潤し本谷へ下る。勾配は緩やかになるも、時折ガレのトラバスがあり気を使う。この谷も左右の小谷からの雪崩で木々がなぎ倒されているのが見え自然の驚異を感じた。下り始めて45分

大南沢の出会いあたりか？雪渓上の登山道に太い倒木がありどかして通りやすくする。このトレッキングは路普請も兼ねており、ガレを取り除き路面を平らにし、斜面から突き出た木を伐りながら進む。11時岩魚留小屋に到着。江戸の峠往来からあったであろう桂の大木の元にひっそりとたたずみ、朽ちてしまわねばと思う。聞けば国立公園内のため設置契約更新の時期にあり、更新して小屋の存在を知らしめ、またアルプスへの玄関口としてのこの峠路に多くの登山者が戻ってくれることを願うものである。

12時出発。時折栈道や出水で荒れたために河川敷の中を歩くが快適な路歩きができた。明神から峠までは何回か往復しているが、40数年前ボーイスカウトの訓練で二股から峠まで往復したことを思い出し、山容も含め路の面影が違うものを感じられた。離れ岩を観、瀬戸下橋を渡り、炭焼窯あとで里の暮らしを思い、戻り橋・往き橋を渡り14時過ぎに二股に到着。高山さんの乗用車に分乗して島々安曇支所まで下る。



何かと配慮いただいた徳本小屋の高山さんに、この古路と自然の素晴らしさに、企画・先達していただいた会の皆様に感謝いたします。早い時期に逆の島々から峠越えを夢見て報告とします。

大和 博

第 14 回新潟現地研修会

—山菜ツアー 「塩の道をめぐり崩壊地形を知る」—

5月31日(土)・6月1日(日)梶山新湯 雨飾温泉 1泊の現地研修会が行われました。

今回は苧谷愛彦先生より崩壊地形について勉強しました。

(飲み物で喉をうるおしながら) 車中にて、大峰丘陵、松本盆地東縁断層、鷹狩山の尾根横断型地すべりなどについて、また、青木湖畔にては車を降り、現地の確認しながら最終氷河期の杓池巨大地すべりと、青木湖、佐野坂の成り立ちの解説をしていただきました。

北安曇野に入り、白馬道の駅にて休憩。今日は天気が良く代掻き馬(白馬)、仔馬、尾長鳥(カモシカ)など雪形をはっきり見ることができました。

(田淵行男著 山の紋章 雪形 など参考に) 車窓より八方低断層崖、平川扇状地の確認、白馬大橋よりは白馬三山、鹿島槍、五竜を眺めながらどんぐり地区すべり、断層の解説をしていただきました。車は、杓池方面に入り、塩の道牛方宿塩倉を眺めながら中土より蒲川沿いに、

ここで熊谷さんの「俺が作った?と自慢の砂防堰堤を見て稗田山崩碑へ。ここ稗田山崩は、大谷崩(静岡)、トビ山崩(富山)、日本三大崩落の一つといわれる大規模であったといわれています。

1911年8月8日未明突然稗田山が大崩落。死者23名、土石流は姫川をせき止高さ約63mに、決壊後は日本海まですべての橋を押し流したそうです。いまでも稗田山壁、谷全体に崩壊の痕跡がみられます。幸田文が昭和54年この地を訪れ、「崩れ」を婦人の友へ発表、慰霊碑とともに記念碑が建立されています。

金谷橋付近で自然を眺めながらの昼食。午後は車中久雄さんの小谷時代の自慢話?などなど。道の駅休息後、1996年12月6日蒲原沢土石流慰霊碑お参り。バスは根知の踏切を過ぎ一路、今夜の宿雨飾温泉に向かい狭い狭い道を登っていきます。

温泉入浴後6:00いよいよ宴会、山菜はうど、根曲り竹、うとぶきなど山の幸、お酒もたっぷり懇親を深めることができました。



飲みすぎ注意、おいしかったです。せせらぎを聞きながら全員「日本海」で、お休みなさい。

翌日は、朝食後山菜取り 9:30 出発、糸魚川世界ジオパークへ、枕状溶岩、フォッサマグナなど歩いて見学。一攫千金を夢見て海岸でヒスイ拾い？

名立道の駅にて昼食、海産物の購入、ヒスイ峡へ明星山の岸壁を眺め帰宅の途に就きました。

今回の研修会に小林銀一顧問はじめ、山口孝会長、ヒュッテの磯脇さん及び従業員の方に大変お世話になりました有難うございました。小林久雄さんも二日間大役ご苦労さんでした。わたしも久しぶりの梶山新湯、懐かしい人の写真も拝見できお薬師さま、千代の泉などなど、昔の思い出に浸ることができました有難うございました。



荻野秀夫

第 13・14 回現地研修会を振り返って

第 13 回 14 回の現地研修会に参加して 少し反省したいのでよろしくお願いします。

反省－1 徳本峠越えに参加の為に前日にステーションにお泊りしました。

翌朝早朝に作っていただいた「おにぎり」をザックに島々に戻り、島々谷を徳本峠目指して岩魚留を經由して峠から下る皆と待合せ。山の待合せ（約束）は、小説「氷壁」にあるように最も危険な行為。案の定岩魚留の少し上部での出会いとなりました。もう少し上部まで行けると思ったのですが反省です。

反省－2 崩壊地形を学ぶに参加しました。

仁作さんが「ウエストン祭」で居ない、今回はお酒を控えて頑張ろうと決意したのですが.....。バスに乗車直後に教授から「大信州にごり」をいただき不覚にも酔い酔いに。何とか塩の道をたどりつつ、梶山温泉までは着いたものの.....。久々に素敵な温泉でくつろぎ、ついきました、ビール！！宴会での根知の地酒「男山」にまたまた、酔い酔い。翌日の山菜採りは何とか頑張れましたが.....反省です。

二回とも、天候に恵まれて皆さんの暖かい協力で何とか無事に出来ました。反省しつつも、繰り返すこと幾たびです。今度こそ 蝶ヶ岳ではボッカでのバンカイを誓うのでした。

追伸：頑張って翌朝には、大滝山往復ツアー後に長堀を徳沢園に下りましょう。

小林久雄

?上高地クエスチョン?

中部山岳国立公園指定 80 周年

国立公園は、自然公園法により国が指定した自然公園です。今年 12 月 4 日、上高地を含む中部山岳国立公園が、指定 80 周年を迎えます。

同年 3 月瀬戸内海国立公園、霧島国立公園、雲仙国立公園（現在は名称変更）が第 1 号指定されており、中部山岳は他に阿寒、大雪山、日光、阿蘇（一部名称変更）とともに 2 番目として指定されました。

国立公園の中でも上高地は、特別保護地区に指定され、他に文化財保護法で特別名勝・特別天然記念物にも指定（1952 年）されています。

最近東日本大震災後、旧来の国立公園、県立公園を再編して「三陸復興公園」が出来ました。現在全国で 31 の国立公園があり、観光事業を通じ地域経済を支える要ともなってきましたが、来場者の大幅な減により衰微している地域もあります。

国立公園は、自然の風景地を保護し利用を促進することを目的とされています。保護と利用、相反する目的を均衡をもって継続、達成することは、なかなか難しいものです。

編集後記

会報 13 号をお届けします。久々の発行となりました。長らくサボってしまいましたすみません。

2 月の大雪、関東甲信越各地に大きな被害をもたらしましたが、緑に埋もれるこの季節、あんなこともあったよね。といった感もします。月日の流れの速さをしみじみ思います。

その大雪の中、乗鞍での現地研修会、また 13 回「徳本峠越え」、14 回「山菜ツアー」とまとめてレポートを掲載します。レポートをいただいた会員の皆様ありがとうございました。

さて、今年はこれからも多くの研修会を計画しています。直近では 7 月 18 日に蝶が岳登山が、8 月 5～6 日にはキッズキャンプを、そして 9 月 5～7 日には県外ツアー第 2 弾「会津磐梯山登山」を予定しています。詳細は計画中ですが、多くの会員の皆様にご参加いただければ幸いです。

会員の皆様からの原稿をお願いします。内容はなんでも結構です。是非お寄せください。

山岳科学総合研究所友の会会報 第 13 号

発行日：2014 年 6 月 30 日

発行：山岳科学総合研究所友の会

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

信州大学山岳科学総合研究所友の会事務局

TEL：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438

E-mail：ims-support@shinshu-u.ac.jp